

スキッパー入門

スループ（2人乗り）の安全・快適なセーリングに欠かせないのは「会話」です。スキッパーが黙りこくったままタッキング、ジャイビングを繰り返したら、クルーの頭はブームパンチでぼこぼこになり、沈して海中に投げ出されるのが落ちでしょう。職場の愚痴や艶話ももちろん結構ですが、まずはスキッパーは10秒後、1分後に自分が何をするつもりなのかをクルーに知らせ、そのためにクルーがどう協力したらいいのかをはっきり指示しなければなりません。それ以上は自分たちの技量や決断力の問題ですから、誰を恨むこともありません。

【艀装】

◇艇を選んだら水を抜き、艇を風に立てる。

◇艀装の順序は――

- ①まずドレンプラグを締めよう。
- ②ジブは、タックをバウプレートに、ピークをジブハリヤードに、この順でつなぎ、風見のリボンが付いているか確認する。テンションをかけて張る。
- ③メインは、まずフットをブームのグループに通してからバテンを装着、抜け落ち止めのガムテープ（5×5cm）を貼る。トップバテンは天地を間違えぬよう、また強く締め過ぎぬよう注意。黒球装着。リーチリボン、風見があることを確認。
※ジブ、メインとも強風時に備えて、下から上に向かって艀装するよう習慣づける。バテンを折らないためでもある。
- ④メインシートは、引き込む時メインブロックがカリカリ音を立て方向に通す。追い風の時ブームがサイドステイに当たらぬようノットを作る。ジブシートは端末同士を結びエンドレスにするのも可。
- ⑤ブームバングは上下、前後を間違えぬように。
- ⑥サイドステイの風見は、デッキの上約1mを基準に。
- ⑦ラダーは、外れ止めのピン、船体への連結シートを確認。移動時、振動で落下しないよう「アップ」のシートをティラーにしっかり留める。
- ⑧セルフベイラーが閉まっているのを確認。
- ⑨各シート、ブームバング、カニンガム、アウトホールは出艇直前まで十分緩めておく。

【出艇】

◇移動時の艇の向きは「風にたてて」が基本。風向きによって水に下ろす位置を考える。スロープは滑らぬよう横歩き。

- ◇1人が腰まで水につかりフォアステイかサイドステイを掴んで艇を支え、もう1人が台車を抜き取る。
- ◇クルーが先に風上側（またはスターン側）から乗艇。センターボードを半分下ろし、ラダーの「アップ」シートを外して水に浮かべ、メイン、ジブ両シートの遊びを取る。
- ◇スキッパーが乗り込み体勢を整えるまで、クルーはラダーをセンターに保つ。スキッパーはメインシートを引いて素早く沖へ。センターボード、ラダーその他の最終セットはそれから。

【帆走——アビーム】

- ◇スキッパーは原則として風上側の、メインブロックの前に座る。微風、弱風なら前寄り、中風以上なら後ろ寄り。
- ◇走らせ方の基本は「艇の中心線と風の方向が作る角度の二等分線上にセールを開く（ブームを置く）」。
- ◇従って、真横から風を受けるアビーム帆走のブームは約45度。サイドステイの風見の延長線が、ブームの中央から端末までの間と交わるようブームを引き込む。
- ◇帆走方位を決めたら、遠くに目標を設定し、直線帆走する。
- ◇シートの握りは、メインブロック側に小指を向けて「こぶし」を握り、手首を立てる。※緩みにくく、握りを緩めるとシートは楽に出ていく。
- ◇ラダーとセールの操作は——
 - 風下へ（下る、ベアリング） →ティラーを引く
→セールを出す
 - 風上へ（上がる、ラフィング） →ティラーを押し
→セールを引き込む

【帆走——クローズホールド】

- ◇ブームは約10度。シートをいっぱい引き込み、セール（ブーム）をできるだけ内側にセットする。風が変わったらティラーで方向を微調整する。
- ◇強風時の上りは、ひたすら体重でヒールを殺す。できるだけ後ろに乗る。
- ◇ヒールの殺し方
 - ①肛門ハイクアウト（クルー、スキッパーとも）・・・・・・・・・・ベスト
 - ②メインセールを少し緩め、風を逃がす。ジブは決して緩めない。⇒スピード、上り角ともロスする・・・・・・・・・・ベター
 - ③デッドゾーン（風上方向）に艇首をわずかに出し入れする⇒スピードはロスするが、上り角度は維持・・・・・・・・・・ベター

◇セイルトリムの目安

	微風	順風	強風
メインシート	弱め	強く	強く
カニンガム	引かない	弱め	強く
アウトホール	弱め	弱め	強く
ブームバンダ	引かない	強く	強く

【タッキング】

- ◇クローズホールドを維持。3時（または9時）方向に他艇がないことを確認する。同時に、タック後の新しい目標を設定する。
- ◇「タック用意」の声掛け。クルーからの「OK」の返事を待ってティラーを押す。シートは手の中で緩める。（30cm）
- ◇タック直前には極力ヒールを殺す。また、トランザムを引きずらないよう、心持ち前乗り。
- ◇セールがシバーし、ブームが頭上を通過するときを目安に、反対舷に乗り移る。姿勢は前向き、中腰。足を踏ん張り、転ばぬよう注意。
- ◇セールに新しい風が入ったら、ティラーを中央に戻してハイクアウト。メインを素早く引く。
- ◇ポイントは――
 - ①バウを波に叩かれないように。
 - ②セールがシバーする時間をできるだけ短く。
 - ③艇速を落とさないように。
 - ④ティラーを急激に切らない。切りすぎない。（100度回して90度に戻す気持ちで）

【帆走——ランニング】

- ◇艇の中心線・風の方角・ブームの位置の原則は同じ。
- ◇後ろから風を受けるので、帆は横いっぱい。横流れがほとんどないので、センターボードは4分の3上げる。
- ◇ローリングしやすいので、体重移動に注意する。（ローリングはブレーキになる）クルーは風下側、スキッパーは風上側に分かれて乗るなどする。
- ◇微・軽風では前乗り、中風以上は後ろ乗りを心がける。
- ◇中風以上の時はブローチング（艇が急激に風上へ切り上がりラダーが効かなくなる）に注意。その気配があったら――
 - ①早めにティラーを引く。
 - ②十分にハイクアウトしヒールを殺す。

- ◇風が真後ろより下へ回らぬよう（ワイルドジャイブ）風見の毛糸で風の流
れに注意。（斜め後ろから風を受けるようにする）
- ◇観音開きよりスケーティング（ジャイブの繰り返し）の方が、風下の目標
に到達する時間は短い。※習字の「く」の字のように角度を小さく。
- ◇サーフィングも楽しもう。
 - ①波が近づいたら少しラフしてスピードを上げる。
 - ②スターンが持ち上がったらベアして艇を波と直角に。
 - ③前の波に突っ込みそうなら、また少しラフする。その繰り返し。

【ジャイビング】

- ◇ティラーを引き、バウを風下へ。サイドステイの風見を見ながら艇を回し
続け、メインシートの束を掴んでセールを返し、反対舷に乗り移る。
- ◇セールが開ききり最大の風力がかかる瞬間に合わせて、ティラーを新しい
風上側に切り、すぐセンターに戻す。（あて舵）
- ◇クルーは、ブームが風軸を越えるまでブームバングのシートを掴んで引き
込み、出ていくブームを引き止めながら放し、風上舷に移って思いきり体
重を掛ける。
- ◇波に乗ってスピードが出た時にジャイブする方が、風圧も小さい。

【沈アラカルトと対策】

- ① クローズホールドの時ブローによる吹き倒し
《対策》ティラーを少し押す。メインシートを少し緩める。
- ② タッキングの際、体重移動の遅れ
《対策》素早く反対舷へ移動しハイクアウト。艇の回しすぎにも注意。
- ③ アビームの時、ブローによる切り上がり
《対策》メインシートを出す。ベアする。
- ④ ランニング中のローリング
《対策》センターボードを下ろす。ティラー操作、体重移動で抑える。
- ⑤ ランニング中のワイルドジャイブ
《対策》風向きに注意。波や艇速で舵を取られないようコントロール。
- ⑥ ジャイブ直後のオーバーヒール
《対策》体重移動とあて舵。

【着艇・発艇】

- ◇目標ポイントの風下にアビームで走り、角度と行き足を加減しながら接近、
最後は風に立てて接岸する。

- ◇接岸時のポンツーンと艇の角度は、他の係留艇またはクルーザーの風見を見て判断する。
- ◇クルーには、アビーム走の段階でジブシートを離させ、舳いロープを持って船首に行かせる。
- ◇接岸の際、クルーはフォアステイを股に挟んでバウに座り備える。スピードが出過ぎていれば、膝のばねを使って足裏で棧橋を蹴る。手は厳禁。
- ◇接岸後は、メインセールを下ろし、ジブセイルを巻き取り、センターボードを上げる。ラダーはそのまま。
- ◇発艇時。艀装を終わったら、スキッパーが先に乗り、メインシート、ジブシートの遊びを取る。ラダーはセンター。
- ◇クルーは舳いロープを手に持ち、膝立ちで棧橋を蹴りながら乗艇する。
- ◇スキッパーは、艇が十分棧橋を離れるのを待ってメインシートを引き込み、艇速がついたら行きたい方へティラーを切る。
- ◇クルーもジブシートを引き込み帆走。

【帰着】

- ◇ハーバーに入ったら、クルーに指示してメインハリヤードのシートをフレイクさせる。
- ◇マストを股に挟んでスキッパーと向き合うようにクルーを座らせ、艇を風に立てたら呼吸を合わせて素早くメインセールを下ろす。
- ◇スキッパーは、ジブセールに風を当てて艇をスロープへ向け、ラダーを上げる準備。クルーはセンターボードを上げてバウへ。

【解装】

- ◇沈しなくてもスプレーを浴びたジブセールは水洗いする。
- ◇シート、ティラー、ラダー、船台を水洗いする。
- ◇セールは出来るだけ乾かして収納する。
- ◇各艀装品は所定の場所へ。
- ◇不具合、修理個所が発生した場合は、ノートに記入し、軽微なものは即日補修する。